



特集: 図書館リニューアル

| | | |
|------------------|-------------|----|
| 巻頭言：中央図書館の改修に思う | 高阪一治 | 1 |
| 図書館に期待すること | 塩崎一郎、馬西由深 | 3 |
| リニューアルオープン記念式典 | | 6 |
| 図書館施設案内 | | 8 |
| 図書館紹介：鳥取県立図書館 | 小林隆志 | 9 |
| ミニ・シリーズ 情報検索コーナー | ～OPAC の使い方～ | 11 |
| 図書館委員紹介 | | 13 |
| トピックス | | 14 |



巻頭言

中央図書館の改修に思う

高阪一治

長年の懸案事項であった本学附属中央図書館の改築や改修が、昨年度の耐震工事に伴って改修という形で実現し、本年、平成22年度の4月から全面的にリニューアルオープンした。前年度の改修工事にあたり、一時休館したり、本学広報センターを仮設図書館として使用して、サービスの提供にも制約があったため、利用者の方々にはご不便、ご迷惑をおかけしたが、今年度から、元の場所に戻り、施設を全面的に改修し、外観の一部や内装を一新するとともに必要な設備の導入を図ることで、より一層充実した図書館サービスを提供できる重要な条件のひとつが整ったと言えるだろう。迎える側の館長としては、少しほっとしながら、どうか多くの方にご利用いただきたいと願うばかりである。

こうしたリニューアルが可能になったのは、能勢学長をはじめとする多数の関係者のご支援、ご尽力の賜物であり、ここに厚くお礼を申し上げる。

さて、以下は、この改修に館長として立ち会い、見届けた者のひとりとして、このリニューアルを大いに活用して、これまで以上に役に立ち、頼りとなる本学附属中央図書館を生み出すにはどうあればいいか、を考える一助になればと思い、考えるところを述べてみたものである。

まず、今回の改修を図書館としてはどのように受け止めたのか、といった点から記してみよう。

元来、附属図書館についてはすでに平成7年に全学的な答申として「新図書館構想」が

提出されており、その後もこれをうけて、中央図書館では「学術情報館（仮称）構想」を用意し、平成14年以来概算要求事項として提出していたのであっ



たが、諸般の事情により実現を見ていないという状況にあった。今回はこの種の新築や改築というのではなく、すでに述べたように耐震強化を旨とする改修というものであったが、図書館としては現実的に好機の到来ととらえ、先の「学術情報館（仮称）構想」は中・長期構想という位置づけの下に、学内の所定の手続きをへて、本学施設環境部との協議を進め、可能な限りの環境の改善を図った。

その際、基調としたものは、1、地域の「知の拠点」としての大学の、そのまた中心に位置する本学附属中央図書館を、館の内外にわたってシンボリックに可視化すること。2、館内で閲覧や学習等を行う際の快適性の向上。3、今日の学習・教育・研究における多様な形態にも対応可能な、使用目的に応じた空間を提供することであった。

その結果、2の快適性の向上という点について言えば、館内全体が明るく暖かみのある色調と落ち着いた雰囲気ですべて統一され、学生諸君が長時間、静かに、腰を落ち着けて学習できる空間を提供することができた。さらに、その3ともからむが、特徴的な点として、一定の限られた範囲であるが、会話が許され、飲み物と一定範囲の軽食が許可されるリフレッシュコーナーを含む、ラーニングコモンズ

用の部屋が1階に設けられた。

ついで3点目であるが、グループ学習室をこのラーニングコモンズ内に3室設け、さらに多目的に有効活用できる多目的ルームを3階に2室設置したことなどである。

では、このように耐震改修を契機としていけば全面改装した館内空間とその設備、および保有図書館資料を提供すれば、もうそれだけで従来よりも役に立ち、頼りとなる本学附属中央図書館が生まれるのであろうか。そんなことはない。図書館を利用する生きた人間とそこで立ち働く生きた人間の問題が忘れられてはならないし、それこそ重要である。

もとより、今回の改修でもって本学附属図書館の基本的使命が変わるわけではないことは改めて言うまでもない。それは、学生諸君や教員をはじめとする利用者の、いまや紙媒体と電子媒体とのハイブリッドである図書館資料を活用しての学習・教育・研究活動等の支援の促進を図ること、あわせて、地域や社会からの本学図書館に対する要求や期待に応じて、学内外にわたる知の拠点たる姿を事柄に応じて示すことである。

そしてこうした基本的使命を果たす役割を演じるのが、組織としての図書館の力であり、具体的には司書の力の結集であろう。表現は不適切かも知れないが「ハコ」と設備は良くなったと言えよう。残るはコンテンツとひとである。本学図書館は利用者から見て役に立っているのだろうか。

先頃、多くの方の協力を得て本学図書館に対する利用者満足度を問うアンケートを実施した。（ご協力いただいた方にはこの場を借りてお礼を申し上げます。）まだ詳しい結果は承知していないが、粗集計を見る限りでは、職員の対応については満足度が高いのに比

べ、資料（専門図書、余暇・娯楽等の図書、および電子ジャーナル）の充実を望む声が目についた。利用者からすれば、必要とする資料がまだまだ不足している、と感じているということで、対応が必要である。図書館間のネットワークや地域の図書館との連携を活用することで解決することがあるとしても、さらにその上で、いつでもその気になればいけば実体としての書籍を手に取り、自分の目で確かめ、使える状態が望まれているのであろう。

図書館としては、利用者個人の関心を満たす努力を進める必要があるとともに、鳥取大学が目指し、進む方向についても、対応する必要がある。

「知と実践の融合」を教育・研究の理念とし、「人間力の養成」を教育方針とする鳥取大学においては、図書館サービスにおいてもその理念や方針をよく認識してコンテンツの充実反映させる必要がある。まずは、この方面の図書館資料の充実およびレファレンスへの対応に努めるとともに、本学で行われている授業に関連する資料の把握と一層の充実を図る必要があろう。

さらに言えば、21世紀の高度情報社会、知識基盤社会における高等教育のあり方からすれば、大量の情報の中で、これに埋もれ無批判に受け入れるのでなく、確かなものを求め、真偽のほどを含めて、その内容を選び取る確かな判断力や読解力が、青年期において形成される必要がある。そのためには、日頃から多角的に判断材料や関連資料を選択・収集し、その資料を読み込みながら論点を整理・分析するといった合理的な作業が必要であり、この訓練に、レファレンスを活用することを含めて図書館が大いに役立つと思われる。

今日の図書館は単なる貸本屋ではない。人によってはどこまで役に立つのかが想像できないほどの多機能満載のオタスケパーソンと言うべきである。大いに使うべし。

本学図書館としては利用者から見てさらに使い勝手が良くなるように、人（司書）と図書館資料の存在とその活用法について、もっと知ってもらおう努力を怠るべきではない。こ

の改修を契機として、本学図書館により一層関心を持っていただき、使い勝手の良い、末永く愛される、信頼される図書館へと近づけたらいいと考えている。

（こうさか かずはる： 副学長（広報担当、附属図書館担当）、附属図書館長、地域学部教授）

電子ジャーナル・電子検索時代の大学図書館に期待すること

塩崎一郎

今日の電子ジャーナル・電子検索時代の大学図書館において「かんじんなこと」とは何だろうかを考えた。そして、その延長線上にある本学図書館に求められる役割とは何かについて一教員として体験を反芻するうちに、図書館員と大学教員の積極的な連携のもとに取り組むことが可能な、学生教育で重要なひとつのテーマにたどり着いた。

「現地調査成功の鍵は事前の図上演習にかかっている。」新卒論生を迎えた調査研究の第一段階はこのような挨拶からスタートする。当然のこととはいえ、学生達は私が意図することは全く見当つかない。例えば、ある地点で〇〇調査を実施するとしよう。学生を横に乗せ、現地へいざ出発。現在殆どの車にナビゲーションシステムが装着されているのでとても快適だ。しかし、往々にしてナビはその目的地「あたり」までしか導いてくれない。そこから先は、学生にも注意深く地図を見つつ候補地点へ誘導するよう案内役を依頼する。眠気と吐き気と後頭部痛に悩まされつつ、不慣れながらもその役割を果たそうとしてくれる。しかし、

「まさに」そこにたどり着くためにはナビゲーションデータにも、地図にも未記載の小道を経る必要があったり、新道が開通していたり、いじわる？の連続だ。そして、最後には、本当にそこにたどり着いたかどうかの判断を下さないといけない。これには地図を読み取る底力が必要だ。このような経験を通して新卒論生は、最初に、「ナビゲーションシステムは便利だが、地形図を読み取る作業のうち、代用できることは限られている」ことを学習する。

案内役見習いの期間が終わる頃、新卒論生は研究目的に適したまさにその地点を図上演習で見いだすためにはそれなりの知識と訓練が要求されることに気づくようになっていく—これが第二段階。これには車中での演習が重要！—。その地域の地質や形成史、場合によっては地震や火山活動等々、文献資料を参照し情報の整理が求められること。また、先行研究を調査し、単なる思いつきで事がこなせるほど甘くないこと。さらには、調査全体を首尾よく運ぶためには移動のルートまでを頭に入れて研究計画

を練る必要があること等々。そして、幾多の試練を経て、完全でないまでもおおむね自力で図上演習ができるようになると、入口は単なる地図1枚であったかもしれないが、次の新しい世界が開けてくる。

最終段階になると図上演習の持つ真の意味を理解して、これまでの現地調査経験をもとに、演習の際に自ら考えた研究プランを提案するまでに成長の跡がみられる。「地形図に記されている等高線や種々の記号の集まりを目で見ることは誰でもできる。しかし、かんじんなこと、例えば、現実の地形、あるいは地形の変遷、それをもたらした地球の理を観ることは、一朝一夕にはできない。」という学習結果を学生自身の研究目的に少しは活かせるようになる。星の王子さまの一節、「・・・かんじんなことは、目に見えないんだよ」というキツネの言葉のように。

このような例を引き合いに出すまでもなく、地図とナビゲーションシステムの関係、従来の学術雑誌・書籍という紙に印刷された出版物と電子ジャーナルや電子検索システムが果たす役割を個々に対比づけると新旧システム両者には本質的な共通点があることに気づく。いずれも目的がない(役割を与えてやらない)とただのハードウェアとソフトウェアの集合体であり、「電子ジャーナル・電子検索時代の大学図書館」というテーマの設定自体、この観点では意味を持たず、図書館の基盤的役割は何もかわらないことが再認識される。たとえ、新システムでは、取り扱う対象物が持っている、もしくはそれから派生する、属性のいくつかが電子媒体になっていること、それらの間の関連付けがソフトウェア的になさ

れている点、そしてこのシステムが予見させる可能性全て、に思想性を見いだしたとしても。

大切なことは、地図の例えを持ち出すまでもなく、その新システムの有効活用のためには、地道な対話を通じた学習が必要となることだ。すなわち、学生にさらなる地平線の向こうへ突き進むに必要な力量をつけさせるという点では、原始的な技術以上のもの一現代の図書館利用法—を伝える必要があるのではないだろうか?そういう意味では図書館と教員の役割はこれまで以上に大きくなったと感じている。まずは、「かんじんなことは目に見えない」ということを認識するための、次には、少しでも「かんじんなこと」が「見える」ようになるための、教育プログラムの作成と実施が図書館を基盤として実現されることを願っている。なぜ図書館なのか?それは、人類の英知、その強さ、弱さが文字等を通して確認できる重要な集積場所に他ならず、「かんじんなこと」は全てこの場に詰め込まれていると信じているから。その意味では図書館が継続的、主体的に実施されている講習会は積極的な活動として高く評価できると思う。そこで、もう一歩進め、ひとつのたたき台として、図書館と教員とが積極的に連携できる教育プログラムを模索する上で、初年度からの継続した「作文」学習というキーワードを提案したい。

良い書き手は良い読み手であるらしい。良い読み手が良い書き手になるかどうかは知らないが、文章を読んでいて、なるほどと納得させる文章を書く人はおそらくは数多くの書物に慣れ親しんできたのだろうと納得する。「読むこと」から学生は何を思い

浮かべるのであろう？そのひとつのアイコンは図書館に繋がるのではないだろうか。では、「書くこと」から学生は何を連想するのだろうか？その象徴として卒業論文が存在するのではないだろうか。本学でも作文指導が大学入門ゼミの一部や各種実験演習科目のレポートや卒業論文作成等で実施されていると思われるものの、これまで「作文」だけを正面から取り上げた全学的かつ系統的（入学時から卒業論文作成に有機的に関連する）講義・演習科目は無い。今さら作文と思われるかもしれないが、私の認識では、今だからこそきちんとした文章が書け

る学生を社会人として世に送り出すことは、社会にとっても当然本人にとっても（本学にとっても）、意味があることではないかと思っている。鳥取大学の卒業生は、パラグラフが書ける、著作権の存在を認識する、引用と盗用の区別ができる、そして、言葉を取り扱う能力が優れている、というような評判は悪くないように筆者は思う。いかがでしょうか？

（しおざき いちろう：大学院工学研究科
准教授）

図書館に求めること

馬西由深

私は、必要としている情報を得ることができる場所であり続け、多様なニーズに応えられる空間であることを図書館に求めます。

図書館は、所蔵している文献やDVD、新聞等を通して多様な情報を提供してくれます。また、パソコンが設置されており、インターネットに接続して検索することもできます。大学生にとって、研究のための文献を気軽に閲覧することができ、個人では手に入れ難い資料から知識を得ることのできる施設はなくてはならないものだと思っています。そして、図書館はそのような機能を持つため、様々な分野の古いものから最新のものまでを豊富に取り扱うことが求められているとともに、所定の場所にきちんと文献や資料が配列されている状態を維持したり、資料検索方法を充実させたりすることが必要とされていると考えます。また、全ての文献を所蔵することは不

可能なため、多くの他の図書館と連携し、横断的存在であることも求められていると思います。現在でも文献複写を他の図書館へ依頼することができる仕組みになっていますが、資料が手に届くまで時間がかかってしまうことがあります。早急にその資料を必要としている場合もあるため、今以上に迅速に情報を得ることができるよう改善されればより良いと感じます。

また、情報・資料提供という役割に加えて、その場所が個人でも団体でも利用でき、様々なニーズに応える場所であることも求めます。図書館は、ちょっと立ち寄ってベストセラーや新刊を閲覧したり、考え事をしたり出来るような静かで落ち着くことのできる空間を提供してくれ、それはこれからも継続してほしいと思います。また、図書館は自習室として多くの学生が利用しているとともに、会議室

として使用することができる部屋も設置されており、図書館に置かれている資料を閲覧しながらの団体での話し合いやサークルの打ち合わせ、プレゼンテーションの練習等で活用することができ、学生にとってなくてはならない場所となっています。このように、図書館の利用方法は多様であり、たくさんの人が

利用します。図書館に求められることは、これからさらに多様化していくのかもしれませんが、利用者の声に耳を傾け、様々な要求に応え、各々が気持ちよく利用できる施設であり続けて欲しいと考えています。

(まにし ゆみ 地域学部地域文化学科3年)



「鳥取大学附属図書館 耐震改修工事リニューアルオープン記念式典」

鳥取大学附属図書館（高阪一治館長）では昨年より耐震改修工事を行っておりましたが、さる4月5日に新装開館いたしました。これを記念いたしまして、4月22日に「鳥取大学附属図書館 耐震改修工事リニューアルオープン記念式典」を行いました。

当日は雨模様のあいにくの天気でしたが、式典には能勢学長、森本鳥取県立図書館長ほか、学内外から多数の方にお越しいただきました。



能勢学長



高阪館長



森本鳥取県立図書館長



左から萩原副学長・事務局長、
能勢学長、高阪館長



鳥大イメージキャラクター
「とりりん」と

<改修前>



玄関



閲覧室



カウンター

<改修後>



鳥取大学附属図書館では、鳥取県内各図書館と連携し、相互協力、連携事業を共同で実施しています。今号よりシリーズで、各図書館の特徴・取り組み等を紹介して頂きます。今回は、鳥取県立図書館にお願いしました。

課題解決型の図書館の実現に取り組む、鳥取県立図書館の取り組み

鳥取県立図書館 支援協力課長 小林 隆志

はじめに

県立図書館が、『くらしに役立つ図書館』という言葉掲げて、サービスを提供し始めて数年が経過した。『何ができるのか』、『どこまでできるのか』と試行錯誤を重ねながら展開してきた、鳥取県立図書館の事業について紹介させていただきます。

医療健康情報を届けるシステムを構築・・・倉吉厚生病院図書室のサポート

去る、平成 21 年 1 月 21 日に県立厚生病院図書室がオープンした。この図書室は、入院患者とその家族、医療従事者が必要とする医療・健康情報を提供する目的で設置された。大切なことは専任の職員が配置されたことである。患者さんの求める内容を的確に把握し、それを図書館のネットワークを活用して情報収集し提供ができる環境になったということである。倉吉市立図書館、鳥取県立図書館、鳥取大学附属図書館という、館種を超えた図書館が協力して必要な資料を送り届ける態勢を整えた。大まかな役割分担は以下の通りである。

- ・倉吉市立図書館・・・児童書や小説、エッセイなどの図書資料の提供
- ・鳥取県立図書館・・・最新の医学情報に関する図書や文献情報などの提供
- ・鳥取大学附属図書館・・・最先端の医療技術や治療法に関する情報の提供

平成 22 年 9 月に厚生労働省が受療行動調査（平成 20 年度調査）を公表した。この調査では、「入院患者が入院中に必要とした情報は、どういうものでしたか？また、それは入手できましたか？」という問いに対して、検査や治療法の詳細についての情報が必要であったと答えた方が 50.8%で、それが入手できたと答えた人は 21.4%である。また、医師などの専門性や経歴についての情報が必要であったと答えた方は 49.6%で、入手できたと答えた人は 16.6%である。つまり病院に入院していても、およそ 30%の人たちは欲しいと思っても情報が手に入らないという実態が明らかにされている。この状況に対する図書館としての一つの答えが、この厚生病院図書室のオープンである。インフォームドコンセントやセカンドオピニオンなど、患者が治療法や医師を選択する時代が到来している現実に対して、情報を提供する機関は整備されていない。この部分を埋めるのが正にこの病院図書室であると考えている。



開室と同時に来館されたお客様

労働トラブル解決支援の取組みと『働く気持ち応援コーナー』の設置

平成 20 年の秋から翌年初めにかけて、『派遣切り』という言葉が世の中を駆け巡った。鳥取県内でも多くの方が仕事を失ったという報道が流れた。このような、社会情勢の中で、図書館としてできることはないかと考え、スタートさせたのが、資格取得のためのテキストや問題集の提供である。それまで当館では、それらは、本来学習者が個人的に購入するものであり、図書館の資料としては相応しくないと判断していた。しかし、こんな時だからこそ、必要とされる資料を提供すべきではと考え、平成 21 年 1 月末に、資格取得応援の専用コーナーを設置した。

『ビジネス支援サービス』、『医療・健康情報サービス』などの取組みを背景に、『法情報サービス』の発展型として生まれたのが、写真の『働く気持ち応援コーナー』である。

このコーナーは、「職業紹介」、「資格取得」、「賃金・雇用契約」、「メンタルヘルス」、「女性と仕事」、「障がい者と仕事」等の 26 の小テーマにより構成されている。「今ある課題を解決して次のステップへ踏みだしたい」と考えている方々が必要とする情報を、図書・パンフレット・専門機関の情報等を通じて提供したいというのがこのコーナーの趣旨である。

コーナーをつくるだけですべてが解決するほど問題は単純ではないが、様々な試行錯誤の中で、このコーナーを進化させ、少しでも課題解決の役に立つ情報提供を行いたいと考えている。



< 『働く気持ち応援コーナー』のテープカットの様子 平成 22 年 3 月 12 日 >

右から 中永廣樹鳥取県教育長、稲田寿久鳥取県議会総務教育常任委員会委員長、山根淳史鳥取県商工労働部長、森本良和鳥取県立図書館長

まとめ

課題解決型の図書館という言葉を目にするようになって久しい。個人や地域の課題解決に貢献できる情報提供を実現するために、多くの図書館で様々な取組みが行われているが、気になるのは、本当に利用者の視点に立ったサービスが展開できているかということである。図書館の置かれている状況を打開することを目的にサービスが行われたり、お客様の意見を聞くことも無く、図書館員の思い込みだけでサービスを展開しては、真にそのサービスを実現することは出来ないと考えている。常にそういう視点を持ちつつ、自戒の気持ちを持ち続け、これからの鳥取県立図書館のサービスの充実させたいと考えている。

OPAC（図書館蔵書検索）について

鳥取大学図書館情報課

金子 尚登

はじめに

湖山キャンパスにある中央図書館は昨年来の耐震改修工事を経て、2010年4月に新装開館いたしました。それに先駆けて2010年2月に図書館システムの更新を行いました。これに伴いインターネット経由で図書館の蔵書を検索するシステム OPAC(オーパック：Online Public Access Catalog)もリニューアルいたしました。ここでは新しい機能を中心にご紹介いたします。

検索ページ(<http://www.opac.lib.tottori-u.ac.jp/opac/>)

中央図書館/湖山キャンパスの資料と医学図書館/米子キャンパスの資料をまとめて検索し結果を表示できるようになりました。また、検索結果の画面から別のキャンパスにある資料の予約や取り寄せもできるようになりました。



簡易検索画面

| | |
|--|--|
| 資料区分 | : <input checked="" type="radio"/> 全資料 <input type="radio"/> 図書 <input type="radio"/> 電子ブック <input type="radio"/> 雑誌 <input type="radio"/> 電子ジャーナル <input type="radio"/> 視聴覚資料 |
| 和洋種別 | : <input checked="" type="radio"/> すべて <input type="radio"/> 和書 <input type="radio"/> 洋書 |
| 検索対象館 | : <input checked="" type="radio"/> すべて <input type="radio"/> 中央図書館 <input type="radio"/> 医学図書館 |
| フリーワード | : <input type="text"/> |
| 表示順/表示件数 | : タイトル を 昇順 で表示 20 件/ページ |
| <input type="button" value="検索"/> <input type="button" value="クリア"/> | |

上部メニュー内の「新着図書」および「新着雑誌」では1日ごとの新着資料を一覧することができます。また、「貸出ランキング」では月ごとの貸出ランキングも見られます。

| 順位 | 書名 | 請求記号 | 貸出冊数 |
|----|--|---------------|------|
| 1位 | 医龍：Team medical dragon / 永井明原案；乃木坂太郎著 | 726.1:Iry:(1) | 33 |
| 2位 | もやしもん / 石川雅之著 | 726.1:Moy:(1) | 17 |
| 3位 | グレブナー基底：代数幾何と可換代数におけるグレブナー基底の有効性 / D.コックス, J.リトル, D.オシー著；大杉英史, 北村知徳, 日比孝之訳 | 411.8:Gur:(1) | 12 |
| 4位 | Dr.コトー診療所 / 山田貴敏著 | 726.1:Drk:(1) | 12 |
| 5位 | 細胞の分子生物学 / Bruce Alberts [ほか] 著；中村桂子, 松原謙一監訳 | 463:Sai | 11 |
| 6位 | 新編新し国語：教師用指導書 / 新編新し国語編集委員会, 東京書籍株式会社編集部編；東京書籍株式会社著 | H17 | 11 |
| 7位 | 語りかける身体：看護ケアの現象学 / 西村ユミ著 | 492.9:Kat | 9 |
| 8位 | 新編あたらしいこころ / 角野栄子 [ほか] 著 | K | 9 |

My library (マイライブラリー)

貸出など利用記録の確認や、予約・取り寄せの申込、など図書館利用に関する個人ごとのページです。「My Library ログイン」からユーザ ID,password を入力して利用できます。なお、教職員の方は利用登録をしないと利用できませんので、まだ登録をされていない方は、中央図書館資料サービス担当もしくは医学情報担当までお問い合わせください。

ID とパスワードは次の通りです。

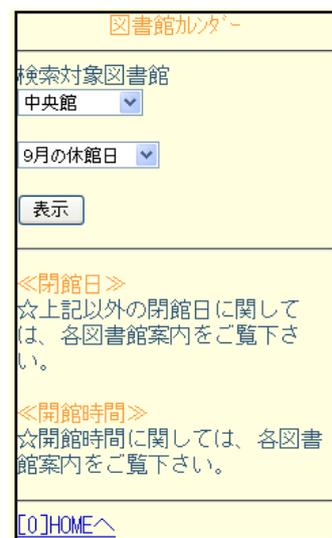
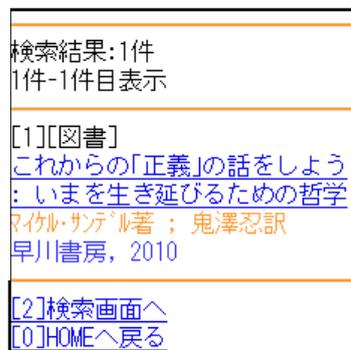
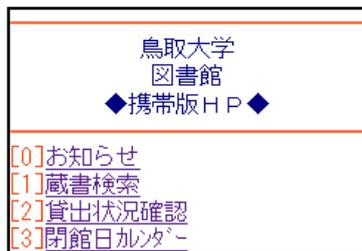
| 利用者 | ユーザ ID(利用者番号) | Password |
|--------------------------|---|----------------------------------|
| 学生 (学部生、大学院生など) | 学務支援システム (LiveCampus)と同じ (=学籍番号) | 学務支援システム (LiveCampus) 上で設定してあるもの |
| 教職員 (2010/2 までに利用登録済) | 中央図書館：1+利用者カードの8桁の番号 医学図書館：20+利用者カードの7桁の番号 | 登録時に設定したもの (変更可) |
| 教職員(2010/3 以降に利用登録済) | 利用者カードの9桁の番号 | |

なお、教職員については職員証の IC カード化に併せて再度変更される可能性があります。

携帯サイト

携帯電話向けの OPAC を新たに作成しました。

蔵書検索の他にもお知らせの表示、貸出状況確認、閉館日カレンダーも携帯電話からみることができます。



(注：画面はエミュレータで表示したものです)

鳥取大学附属図書館委員会委員名簿

平成22年9月

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 | 任 期 |
|--------------|--------|------|------------------------|
| 附属図書館 | 館 長 | 高阪一治 | 平 21. 4. 1 ~ 23. 3. 31 |
| 医学図書館 | 医学図書館長 | 成瀬一郎 | 平 22. 4. 1 ~ 24. 3. 31 |
| 地域学部 | 教 授 | 足立和美 | 平 22. 4. 1 ~ 24. 3. 31 |
| 〃 | 准教授 | 溝口達也 | 平 21. 4. 1 ~ 23. 3. 31 |
| 医 学 部 | 教 授 | 前田隆子 | 平 22. 4. 1 ~ 24. 3. 31 |
| 工学研究科 | 准教授 | 大観光徳 | 平 22. 4. 1 ~ 24. 3. 31 |
| 〃 | 准教授 | 有井士郎 | 平 21. 4. 1 ~ 23. 3. 31 |
| 農 学 部 | 准教授 | 石原 亨 | 平 22. 4. 1 ~ 24. 3. 31 |
| 〃 | 准教授 | 保坂善真 | 平 21. 4. 1 ~ 23. 3. 31 |
| 連合農学研究科 | 教 授 | 東 政明 | 平 22. 4. 1 ~ 24. 3. 31 |
| 生命機能研究支援センター | 准教授 | 森本 稔 | 平 21. 4. 1 ~ 23. 3. 31 |
| 乾燥地研究センター | 教 授 | 井上光弘 | 平 22. 4. 1 ~ 24. 3. 31 |
| 大学教育支援機構 | 教 授 | 福安勝則 | 平 21. 4. 1 ~ 23. 3. 31 |
| 総合メディア基盤センター | 教 授 | 石田 雅 | 平 21. 4. 1 ~ 23. 3. 31 |
| 産学・地域連携推進機構 | 准教授 | 清水克彦 | 平 22. 4. 1 ~ 24. 3. 31 |
| 医学図書館 | 教 授 | 海藤俊行 | 平 21. 4. 1 ~ 23. 3. 31 |

図書館職員による講習会を行っています

4月から7月にかけて、毎年恒例となっている図書館職員を講師とする講義や講習会を行いました。今年度のこれまでの実績は、情報リテラシ（1年生対象）での講義15回、大学入門ゼミ（1年生対象）での図書館ツアーが5回、オーダーメイド講習会が7回です。

このうち、新入生全員が受講する情報リテラシの講義では、図書館の利用、資料の特性、OPAC、Webcat Plus、CiNiiの検索方法、論文の書き方のマナーなどを説明しました。アンケートでは「とてもわかりやすい」「わかりやすい」が合わせて全体の61パーセントを占めるなど、まずまずの評価をいただく一方で、声の大きさや講義の進め方等について注文も寄せられました。この時期の一連の講習会は、図書館職員にとっても、業務上の基本的な事から、自らのスキルについて見直すよい機会となっています。今後さらに講習の技術のレベルアップに努めてゆきたいと思います。

また、一度の講義では知識がなかなか定着しない、雑誌論文の検索等については1年生の段階でなかなか必要性が理解してもらえないといった問題点もあります。先生方には、とくに卒業研究の段階で、ゼミ単位などでのオーダーメイド講習会の利用を是非お勧めします。

利用者アンケートを実施しました

平成22年7月1日（木）～7月27日（火）にかけて図書館利用者アンケートを実施いたしました。利用者アンケートの実施は、平成14年以来になります。実施方法として、学生へのアンケート用紙の配布は、同じ日程で実施された学生生活実態調査に合わせて行いました。1年生に対しては英語の必修授業に用紙を持参して配布し、2年生以上の学部生及び大学院生に対しては、各学部の教務係に配布を依頼しました。配布したアンケート用紙の回収は、図書館、各学部教務係、大学生協等に回収箱を設置して行いました。また、教職員に対しては、図書館ホームページにアンケートページを作成し、インターネットからの回答を依頼しました。アンケートページの作成は、メディア教育開発センターにより開発されたREASを利用しました。今回のアンケートでは、学生・教職員および学外者を含めて、約2,200件の回答をいただきました。今後の鳥取大学附属図書館の運営に際して、参考資料として活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。



ミニ特集展示を行っています

図書館では、その時々話題の事柄に関連した資料を展示する、ミニ特集展示を行っています。今年度は以下の展示を行いました。

- 追悼・梅棹忠夫
- 就活のための本
- 話題になったあの新書
- レポート・論文のコツ～本の読み方・文の書きかた～
- ワールドカップ！ サッカーを楽しもう
- 今年2回目の月食！
- ：
- などを行いました。今後も適時行っていきます。



就活のための本



追悼・梅棹忠夫



話題になったあの新書



鳥取大学
Tottori University

鳥取大学附属図書館報 第115・116号 (2010年10月)

〔編集・発行〕 国立大学法人 鳥取大学附属図書館中央図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地 [TEL] (0857)31-6728 [FAX] (0857)28-6346

〔E-Mail〕tosyokan-m@adm.tottori-u.ac.jp / 〔ホームページ〕<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

Copyright (C) 国立大学法人 鳥取大学附属図書館 【本館報について一切の無断転載を禁止します】